

## 教職実践演習授業概要

### ア. オリエンテーション、教職の意義

文部科学省から出された科目「教職実践演習」設置の意義と目的について、学校現場の実態及び自らの課題と照らして学ぶべきことを説明する。

つまり、この科目は、これまで本学の学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものであることを理解する。したがって、学生はこの科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されることを学ぶ。

また、本学のオムニバス方式による演習に主体的に参画し、実のあるものにするための心構えについても学ぶようにする。

---

### イ. 学校の安全と危機管理

教員としての使命感、責任感、教育的愛情に立って、学校における危機管理がいかにあるべきかについて、実際の事故事例をもとに対処方法と心構えなどを演習形式で学ぶ。

内容は、児童生徒の怪我などの事故、不審者への対応、学校の重大事故、震災等の事例をもとに事故対応の重要性について学ぶ。その後、それぞれの事故の防止、事故への対処方法と心構えについて考え、交流する。その中で、危機管理に対する共通した考え方や心構え、在り方を身に付ける。

評価は、学生による相互評価あるいは小レポートとする。

---

### ウ. 家庭や地域との連携

現代社会においては情報提供と情報公開が広く求められ、意見、要望を主張したり、苦情を訴えたりすることが当然の権利として受け取られるようになってきている。教育現場でも、保護者との関係が対等になり、自分の子どもの不利益と思われることに対しては、きちんと説明してもらわなければ、と考えている保護者も多くなってきた。いわゆるモンスターペアレントではなくても苦情やクレームなどが増え、現場ではそういう苦情に適切に対応することが求められている。そこで、本講義では、苦情の対応の目的は単なる処理ではなく、信頼関係を築くという視点に立って、解決についての実践的な方法を学ばせたい。評価については、授業時間内で取り組むいくつかの課題に応じて実施する。

---

## エ. 学級経営、学習環境

### \* 「学級目標の具現に向けた学級経営のあり方」

(内容・評価)学級経営を進める際に、教師が年間を通じて大切しなければならないのが、学級目標である。4月に子どもと共に設定した学級目標をどのように具現していくのかは、教師の力量の一つと言える。しかしながら、実際の学級目標を見ると、日々の学級経営との関連が意識されていなかったり、学校教育目標や学年目標とのつながりがないままに、設定されていたりすることが多い。

そこで、学級目標を設定することの意味や価値と、その具現に向けた学級経営のあり方について、グループワークを中心に検討する。その際、実際の学校経営計画や学級経営案、学級目標(掲示物)などを資料として用い、また現場教師のインタビューを紹介するなどして、より実践的な内容とする。なお、グループワークの様子や小レポートの内容などから、総合的に評価を行う。

---

## 保エ. 環境構成と学び

子どもが生活のなかで自然や物、人と出会い、遊びを繰り広げていく事例を概観した上で、保育者が環境を構成することの大切さについて学ぶ。人的環境としての保育者の役割や園生活における新たな環境との出会いに注目し、入園間もない子どもが生活するクラスの環境構成について具体的に考えていく。

- ① 入園時の子どもの心理的な状態について理解する。
- ② 入園間もない子どもに起こりそうな出来事について考える。
- ③ 子どもを迎えるにあたってのクラスの環境整備について考える(壁面・机の位置・並べ方・座り方・保育者の立ち位置・保育室に必要なものなど)。
- ④ 遊び・友達関係など入園間もない子どもへの具体的な援助の方法を考える。

《評価》グループワークや意見の発表など授業への積極的参加度によって評価を行う。

---

## オ. 望ましい集団形成

「望ましい集団形成」について検討する本演習では、教育実習において主に担当した学級において、担任教員が行っていた学級運営を題材とする。担任による学級運営において、学級内の仲間集団内の子どもどうしの関係や、仲間集団どうしの関係を円滑にするために行われていた様々な試みを振り返る。受講生には、教員としての立場から、それらの試みの良い点と問題点について分析した上で、自分ならば問題点をどのように改善し、どのような学級運営を行うか提案することが求められる。各受講生の分析と提案については、全受講生の間で議論し、最後に担当教員が集団の形成と維持に関する社会心理学の知見を踏まえてコメ

ントを述べる。演習での分析・提案とシェアリングを通じて、望ましい集団形成を促す実践知を身につけることを目指す。

---

#### カ. 特別支援教育

教育現場では、様々なニーズのある児童生徒への洞察力、正しい理解に基づく対応力が求められています。そこで、小中学校での具体的な学習場面、生活場面をいくつか想定し、児童生徒の言動やその背景を読み解き、どう対応していくのかをグループワークを通して考えていきます。

---

#### キ. 情報機器の活用と情報モラル

社会の情報化が加速する中、学校教育においても「教育の情報化」が積極的に進められている。教育の情報化には、児童生徒に情報活用能力を育てる「情報教育」、わかる授業を実現し学力の向上をめざす「学習指導における ICT 活用」、校務の効率化によって教育活動の充実を図る「校務の情報化」の3点が含まれるが、これらをバランスよく指導する力が教員には求められる。同時に、社会の情報化による負の面への対応や判断が難しいモラルジレンマ等を検討する「情報モラル」を児童生徒に指導する能力も不可欠である。本講義では、情報モラルを適切に指導する方法を身に付けさせ、学校現場ですぐに指導できる準備を進めたい。評価は、授業時間内にグループで取り組むいくつかの課題に対して、課題解決能力、情報活用能力、コミュニケーション能力の3つの観点から総合的に行うものとする。

---

#### ク. 総合的な学習の時間の計画と実践

「総合的な学習の時間」誕生の歴史的経緯を振り返りつつ目標や今次改訂の要点を確認するとともに、現場教師として役立つ優れた実践事例をもとに感想や意見を交流しあう。授業内容は、赴任校で総合学習を構想するための具体的な手だて／立案段階での留意事項／年間指導計画と展開プロットの作り方／など努めて実践的な内容に絞り、これまでの学びを生かしながら再考する。また、指導上のキーポイントや評価の具体についても触れ、最終的には仮想配当学年のプロットづくりを課して評価する。

---

#### 保ク. 幼児虐待の実態と対応

子どもの心身の発達に深刻な影響をもたらす幼児虐待の現状に対する理解を深めるとともに、事例検討を通して幼児虐待への具体的な対応方法や関係機関との連携について学ぶ。

---

#### ケ. 道徳教育と人権教育

\* 「人を大切にできる実践力を高める道徳教育と人権教育」

(内容・評価) 小中学校での教育実習で受講者が用いた道徳の学習指導案や実際の授業を

振り返る ことを通じて、道徳教育の目標・内容や具体的な指導方法について再考する。あわせて、小中学校で展開されている人権教育のカリキュラムについても検討する。評価については、授業時間内で取り組むいくつかの課題の成果に応じて実施する。

---

### コ. 特別活動の計画と実際

「学校ふれあい体験」や小・中学校での教育実習等で経験的に学んだこと、特別活動の意義、目的、指導法等で学んだこと、学習指導要領を踏まえて、特別活動について理解を深めていく。内容としては、特別活動の中でも学校行事に焦点をあて、簡易ディベートにより色々な角度から考え、議論をし、深めていく。

---

### 保コ. 幼保と小との連携

幼小の連携で、頭に浮かんでくるもの（活動、取り組み、イメージなど）をキーワードとして、幼小連携のイメージを具体化する。

また、指針・要領の改訂（定）で描き出された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し、これらの視点を小学校でどのように活用できるかを考える。

さらに、小学校教育の立場・幼児教育の立場どちらであるかを明確にして幼小の連携で大切にしたいことは何か考える。

《評価》グループワークなど授業への積極的参加度を評価。

ワークシートから、幼小連携の関心・意欲、理解・実践構想力を評価。

---

### 保サ. 幼児の健康管理

子どもが「心身ともに健康な状態」とはどのような状態かについて、これまでの学習や保健関連の教科書を参考にしながら振り返り、子どもの健康を保つための生活環境、保育環境の在り方、日常生活における子どもの健康増進方法について再確認する。

---

### 保シ. 保護者への支援の在り方

つまずきや困難さを示す子どもの親など子育て不安を抱える保護者に関する現実的な架空事例を創作し、その事例を題材としたロールプレイを通して、保護者支援のあり方を検討する。

\* 提出物と意見交流への参加度などで評価する。

---

### ソ. 教師としての実践力の振り返り

教職実践演習で学んだことを振り返るに当たり、学校の教育現場の実態と照らして、教員としての心構えや指導の在り方の総仕上げの時間とする。

そのために、教員としての使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営等のポイント、教科・保育内容等の指導力等について自己の課題を克服し、学校現場に赴く者としてどのような構えで臨むか等の意見交流をして、この科目の締めくくりとする。